

水田魚道の設置、環境保全型農業の実践による生物多様性の保全

—生物多様性保全機能—

えのきまえ

榎前環境保全会



町内の子供達が参加しての水田魚道観察会

榎前地区では、平成18年に愛知県農業総合試験場の開発した水田魚道を2基設置。翌年、農地・水・環境保全向上対策の事業推進母体として農業者のほか地区内全ての関係団体で構成する「榎前環境保全会」を設立した。

水田魚道は町内の水田（約4ha）に11基に増設され、また、農家による環境保全型農業の実践の協力もあり、様々な魚類が水田と排水路を行き来しながら繁殖、多種多様な生き物が生息する場となっており、豊かな生態系が形成されている。



あじょう
愛知県安城市



「どのようの育み米」ほ場
(節減対象農薬5割減)

〔生物多様性の保全〕

水田魚道の設置により水田と排水路の移動経路が確保され、ドジョウ、フナ類、ナマズ等様々な魚類が水田と排水路を行き来しながら繁殖、成育できる場が創設された。また、農家の協力により、減農薬・減化学肥料栽培や冬期に水を張る「冬水たんぼ」も実践され、多種多様な生き物が生息する豊かな生態系が形成されている。

収穫された米は、ブランド米「どのようの育み米」として地元生協や近隣JA店舗等で販売されている。

〔体験学習と教育、景観の保全、地域社会の振興〕

水田魚道の設置を契機に、町内の子供が参加して遡上する魚類等を観察する水田魚道観察会を定期的に実施するとともに、田植え、稲刈り等の稲作体験や収穫祭等子供が農業や環境の大切さを再認識する場を提供している。

また、良好な景観を形成しているれんげ、ひまわり畑に隣接する広場周辺では、町内関係団体と連携してれんげまつり、ひまわりまつりを開催し、全戸参加の農地等ゴミ拾いや産直市、安城市の伝統芸能「三河万歳（みかわまんざい）」を子供達が披露する等子供から高齢者まで地域住民が一体となり交流を深め、地域活性化を図っている。



稲作体験（田植え）



稲作体験（稲刈り）



収穫祭



「どのようの育み米」を販売するJA店舗



れんげ畑（4月）



ひまわり畑（9月）



「ひまわりまつり」早朝
町内一斉ゴミ拾い



「三河万歳」を披露する子供達

※令和2年は新型コロナ対策のため各種イベント中止

東海5

東海農政局の
当該ウェブサイトはこちら



令和2年12月更新